

# 岡山型学習指導のスタンダード増補版 授業改善、「一歩先へ！」 ～児童生徒が主役となる授業づくり～



岡山県教育庁義務教育課  
学力向上対策班

# 進 行

---

研修の  
ねらい

蓄積した  
実践の  
活用

協議

まとめ

# 振り返りましょう

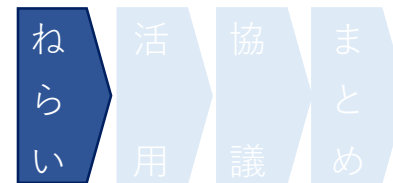
授業5に基づいた授業改善の工夫を交流する。

授業5	授業場面
めあて（目標）を示す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員から一方的に提示する</li> <li>・問題文がめあてになっている</li> </ul>
自分で考え、表現する時間を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数人の児童生徒とのやり取りに終始している</li> <li>・とりあえず、ペアやグループにする</li> </ul>
目標の達成度を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかりましたか？」や「どうですか」と問い「いいです」と答えさせて済ませる</li> </ul>
学習内容をまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の言葉を無理やり解釈する</li> <li>・都合のいい考えだけを取り上げる</li> </ul>
授業の振り返りをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情緒面のみの振り返り</li> </ul>



授業5に沿うことが目的化し、児童生徒がどのように学ぶかについての意識が薄くなっていませんか。

# ねらい



研修のねらいを知る。

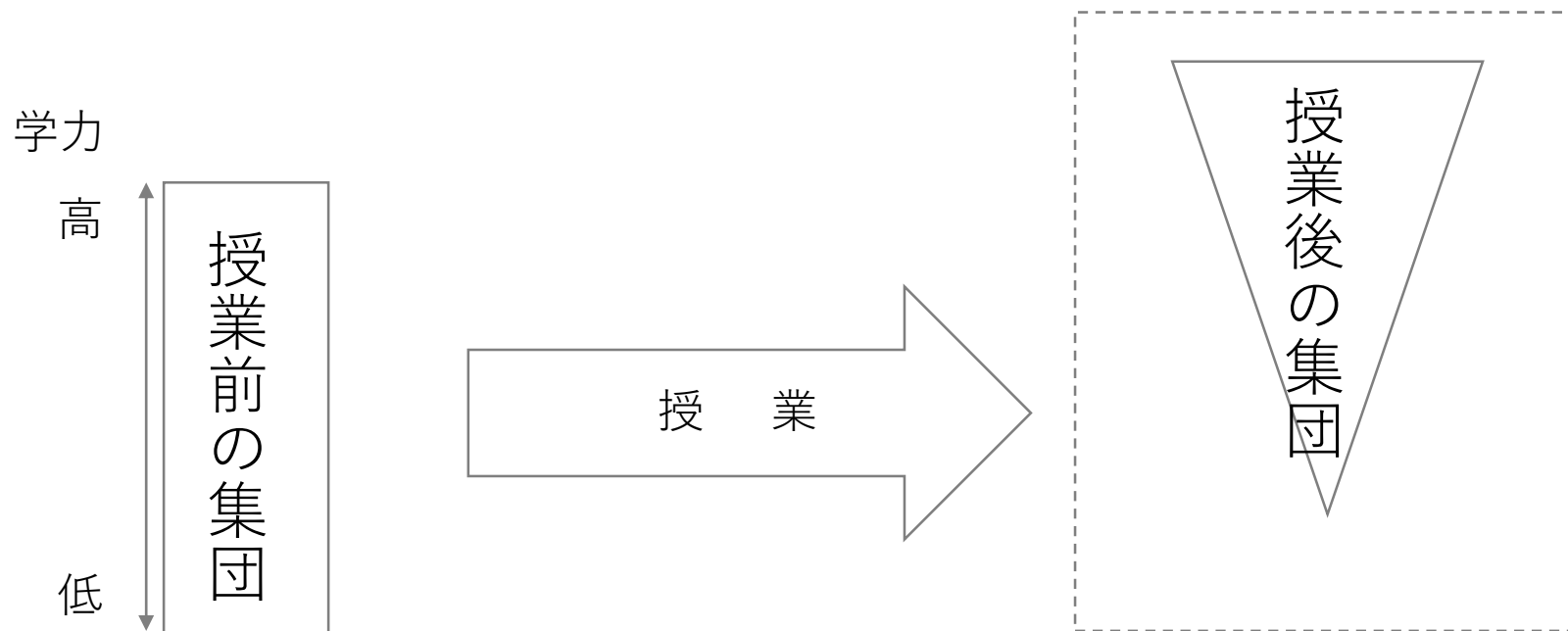
質の高い授業の実現のために、

- 1 『学習指導S【増補版】授業改善、「一歩先へ！」』（以下、「一歩先へ！」とする。）に基づき協議することで、**児童生徒が主役となる授業づくりについて理解を深める**
- 2 各自の実践の好事例を共有することで、学校全体や各自の**授業改善に生かす**ことをねらいとする。

# 質の高い授業



授業後の児童生徒の姿を共有する。



児童生徒を伸ばす授業  
より効率的に力を付ける授業

# 進 行

---

研修の  
ねらい

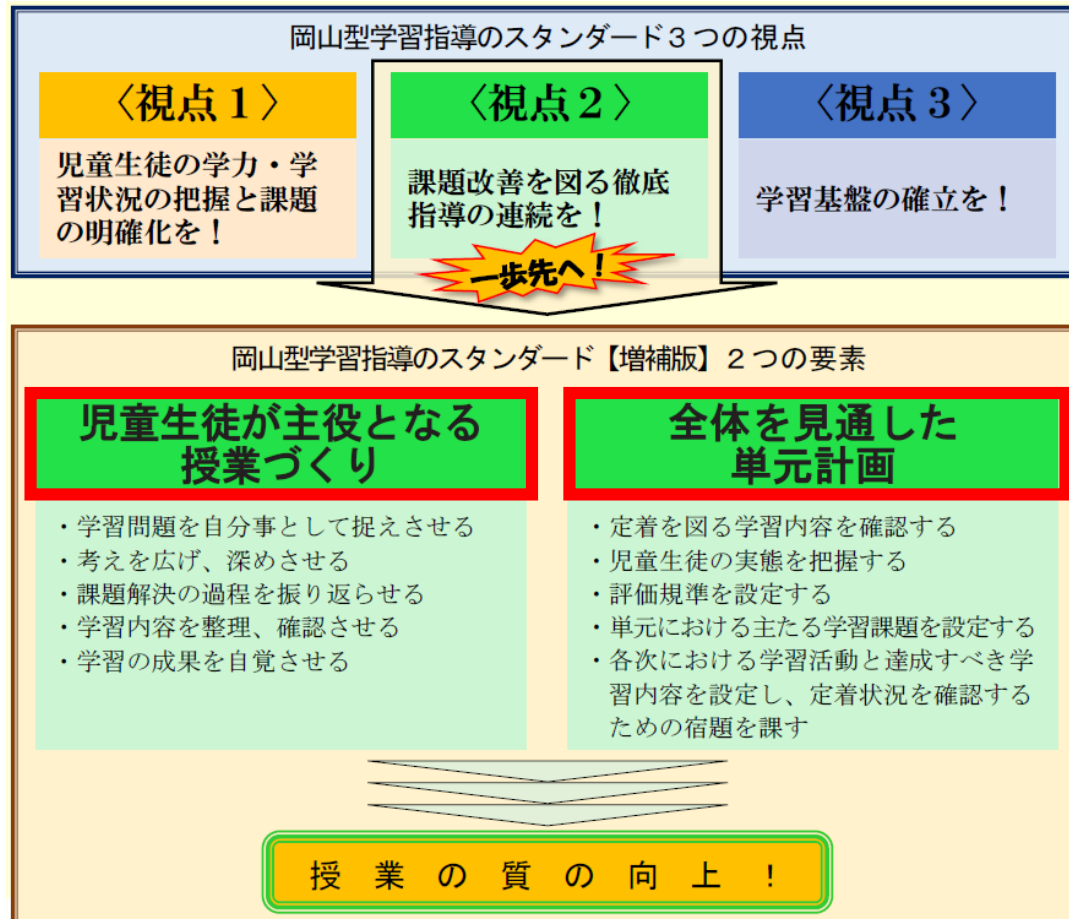
蓄積した  
実践の  
活用

協議

まとめ

# 蓄積の活用

学習指導のスタンダードとの関連を知る。



# 蓄積の活用

若手教員等の熱意と力量ある教員（以下、「指導層」とする。）の経験をつなぎ、授業の質の向上を図る。

**一步先へ!**

若手教員

自分の言葉で、  
学習者目線の授業、  
単元計画を語る。

指導層

本資料に基づき、  
自身の経験を若手に  
語る。

若手教員



意欲 情熱  
授業5で基盤

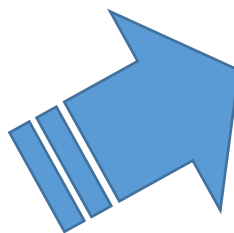


時間 情報

指導層



経験 情報  
後進の育成



柱1

児童生徒が中心となる授業づくり

柱2

全体を見通した単元計画



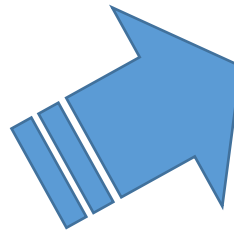
# 蓄積の活用

「教わる」から「学ぶ」へ児童生徒の授業観を転換する。

一步先へ!

## 「教わる」

教員が準備し、指示した内容を進める作業を行う段階に留まる可能性がある。



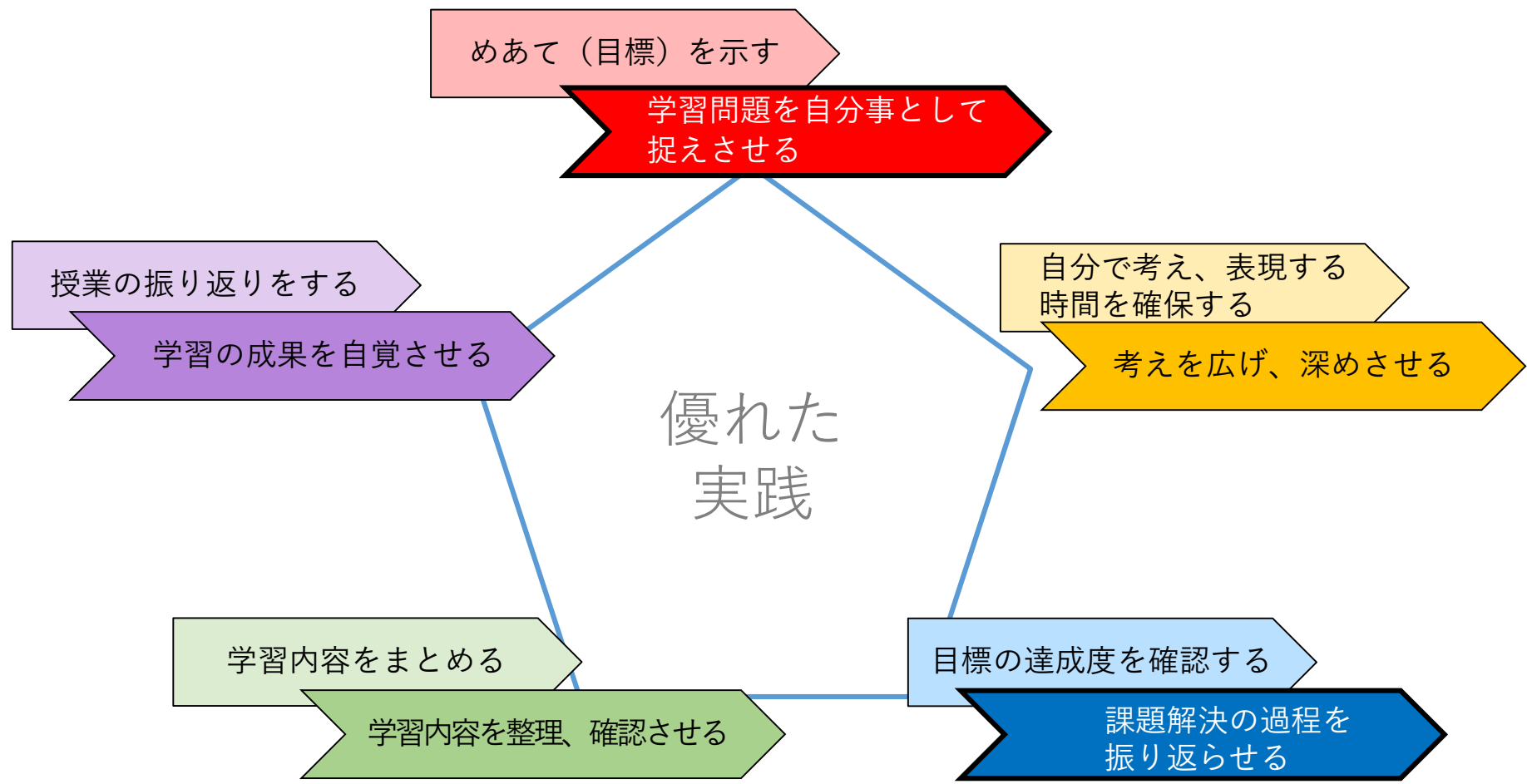
## 「学ぶ」

自分事として学習問題に取り組ませ、自ら解決したり、思いを実現したりする力につながる可能性が高まる。

導入	児童生徒自らが「〇〇したい」と言い出せる学習活動の工夫をする。
展開	答えを活用するだけでなく、解決の過程も振り返らせ、課題解決の手法を学び取らせる。

# 蓄積の活用

培ってきた優れた授業を生かし、「授業5（ファイブ）」を「一歩先へ！」進める。



# 進 行

---

研修の  
ねらい

蓄積した  
実践の  
活用

協議

まとめ

# 「協議」用スライドの構成

「協議」用スライドの構成について知る。

## 【メモ用スライド】

「学習内容をまとめる」を一步前へ  
**本スライドで扱う授業5の場面**  
 「学習問題を自分事として捉え、本時の目標に合った問いを立てて考える。」

**改善が必要な状態例**  
 本時に取り組むべき課題について、理解が深まる。学習が始まる。

**目指す姿例**  
 学習問題を自分事として捉えさせる  
 ・問いの質を高め、見通しを持たせる。  
 ・本時の目標に応じた問いを提示する。

こんなことはありませんか？

自分の考え

参考になる考え

**メモ欄**

11

## 【参考用スライド】

「めあて（目標）を示す」を一步前へ  
**本スライドで扱う授業5の場面**  
 「授業5」めあて（目標）を示す。学習内容を自分事として捉えさせる。」

p 3

**P3、4における関連部分（赤枠内）**

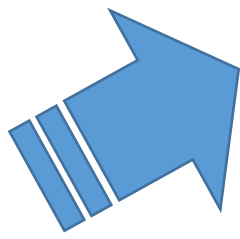
p 7

**P7～9における関連部分（赤枠内）**

12

# 「めあて（目標）を示す」を一步先へ！

「学習問題を自分事として捉えさせる。」ための手立てを協議する。



こんなことはありませんか？

めあて（目標）を示す

- ・ 本時に取り組むべき課題について、理解が不十分なままで学習が始まる。

学習問題を自分事として捉えさせる

- ・ 既習事項と関連付け、解決の見通しを持たせる。
- ・ 本時の目標に応じた問いを提示する。

自分の 考え	
参考に なる考え	

# 「めあて（目標）を示す」を一步先へ！

## <授業5 ①>めあて（目標）を示す 学習問題を自分事として捉えさせる

p 3

### II 授業5(ファイブ)の「一步先へ！」

**「教わる」から「学ぶ」へ児童生徒の授業観を転換しましょう**

- 児童生徒が、授業において自ら「〇〇したい」（知りたい、試したい、解決したい等）と書き出せる学習活動の工夫を単元内に位置付けます。
- その際、問いに対する答えを活用するだけでなく、過程も取り返らせることで、個人としてだけでなく、友だちと協同した課題解決の手法を学び取らせず。

**【導入段階】**

- 前時と関数が表示された問題を複製し、授業開始時に小テストを行うことで、前時の学習内容を確認させます。
- 必要な前提条件を明瞭に示し、関数の解法が存在する【問題】を提示することで、生徒の興味を引き出すとともに、前時の学習内容を活用させることとされます。

**【本時の目標】**

問題の前提となる条件（関数）に着目し、それが適している理由を説明することができる。

**【本時の工夫】**

対話を通して「問い」を引出し、関数を提示し、 $x=4$ の時の $y$ の値を予想させます。その後、予想できた生徒に「どのように表を見たのか」を問う等やりとりしながら、全員が自分の予想を述べるようにします。

**めあて（目標）を示す 学習問題を自分事として捉えさせる p7**

**【方法例】**

導入時における対話や操作等を活用した対象への働きかけ

- 条件不足や過多、児童生徒の認識と事象のずれを利用した学習問題（課題）の提示

**【本時では】**

考えの視点を提示し、全員が自分の考えを述べるようにします。

yの値が異なる予想をした生徒について前問の値を通じて把握します。自分が選んだ値について、理由だけでなく、式に表現したり、代入して確認させたりするようにします。

**②自分で考え、表現する時間を確保する**

考えを広げ、深めさせる p7

p 7

◎ 既習事項と関連付け、解決の見通しをもたせます。

- 児童生徒が、工夫をしたら解決できそうだと思うことが大切です。

**めあてを示す流れ**

- 既習事項の確認
- 問題の提示
- 解決の見通し
- めあての提示

**教員の工夫や配慮事項**

前時までに学習したことを思い出させたり、自分のノートを読み返させたりし、既習事項から本時の学習につなげます。

具体物や掲示物を用いる、対話する、操作する等、児童生徒が問題を把握しやすくなる工夫をします。

問題解決に向けて、活用できる既習事項やその用い方を確認し、板書に位置付けます。

活動の見通しがもてたところで「めあて」を示します。授業の流れも示すと、見通しをもって学習に取り組めます。

p 7

◎ 本時の目標に応じた問いを提示します。

- 思考力、判断力、表現力等を育成する授業では、中心となる発問は、概念的な理解や教科の本質に関わる問いを用います。

**問いの階層**

事実的な知識の問い  
一問一答で答えられる問い

概念的な理解の問い  
方法論「～するには、どうすればよいか」に関する問い

教科の本質に関わる問い  
単元を超え、様々な文脈で活用できる問い

**問いの具体例**

平安京はどこにつくられたか。

平安時代から鎌倉時代への変化はどのように捉えられるか。

社会はどのような要因で変わっていくか。

「自分で考え、表現する時間を確保する」  
を一步先へ！

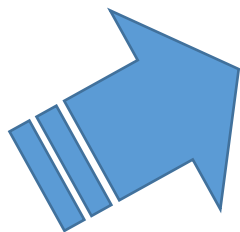
「考えを広げ、深めさせる。」ための手立てを協議する。



こんなことはありませんか？

自分で考え、表現する  
時間を確保する

- ・自力解決が丸投げや作業になりがちである。
- ・考えを広げ、深めることが難しい。



考えを広げ、深めさせる。

- ・問題に対する考えをもてるように教材等を工夫する。
- ・考えを共有したり、比較・検討したりする。

自分の 考え	
参考に なる考え	

# 「自分で考え、表現する時間を確保する」を一步先へ！

## <授業5 ②>自分で考え、表現する時間を確保する 考えを広げ、深めさせる

p 3

### II 授業5(ファイブ)の「一步先へ！」

「教わる」から「学ぶ」へ児童生徒の授業観を転換しましょう

- 児童生徒が、授業において自ら「〇〇したい」(知りたい、試したい、解決したい等)と言い出せる学習活動の工夫を単元内に位置付けます。
- その際、問いに対する考えを活用するだけでなく、過程も振り返らせることで、個人としてだけでなく、友だちと協同した課題解決の手法を学び取らせます。

**【導入段階】**

- 前時となる関数が示された問題を複雑に直し、授業開始時に小テストを行うことで、前時の学習内容を確認させます。
- 必要な前提条件を明瞭に示し、複数の解法が存在する【問題】を提示することで、生徒の興味を引き出すとともに、前時の学習内容を活用させることを行います。

**【本時の目標】**

問題の前提となる条件(関数)に着目し、それが適している理由を説明することができる。

---

**【方法例】**

①めあて(目標)を示す 学習問題を自分事として捉えさせる p7

**【方法例】**

- 導入時における対話や操作等を活用した対象への働きかけ
- 条件不足や過多、児童生徒の認識と事実のずれを利用した学習問題(課題)の提示

**【本時では】**

対話を通して「問い」を引出し出します。問題を提示し、x=4の時のyの値を予想させます。その後、予想できた生徒に「どのように表を見たのか」を問う等やりとりしながら、全員が自分の予想を述べるようにします。

---

**②自分で考え、表現する時間を確保する**

**【方法例】**

- 考える視点の提示(ワークシートの工夫等)
- 意図的な指名
- 考えを広げたり深めたりする問い返し

**【本時では】**

考えの視点を提示し、全員が自分の考えを述べるようにします。yの値が異なる予想をした生徒について前問復讐を通じて把握します。自分が選んだ値について、理由だけでなく、式に表現したり、代入して確認させたりするようにします。

---

**考えを広げ、深めさせる p7**

**【方法例】**

- 考えの視点を提示(ワークシートの工夫等)
- 意図的な指名
- 考えを広げたり深めたりする問い返し

**【本時では】**

考えの視点を提示し、全員が自分の考えを述べるようにします。yの値が異なる予想をした生徒について前問復讐を通じて把握します。自分が選んだ値について、理由だけでなく、式に表現したり、代入して確認させたりするようにします。

p 7

◎ 児童生徒が問題に対する考えをもてるよう教材を工夫します。

- 発達段階に応じて、テキスト、図表、統計、実物等の資料を適切に準備します。

**資料を取り扱う際の視点(例)**

必要な情報の読み取り	全体的な傾向の把握	複数資料の関連付け	特徴に応じた読み取り	資料の収集・選択や吟味	整理と再構成
------------	-----------	-----------	------------	-------------	--------

p 8

◎ 考えを共有したり、比較・検討したりします。

- 本時の目標を達成できるよう、発表や発言を価値付けながら、児童生徒の発言をつなぎます。

**考えを「広げる」問い返し(例)**

**予想** 「～さんの考えの続きが分かりますか？」

**再生** 「～さんの考えを隣同士で説明し合いませんか？」

**要約** 「～さんの説明がもう一度言えますか？」

**発見** 「～さんの考えの良いところはどこですか？」

**考えを「深める」問い返し(例)**

**理由** 「どうしてそう考えましたか？」

**方法** 「どうやって考えましたか？」

**事実** 「どういうことですか？」

**内省** 「考えてみて、どう思いましたか？」

**着想** 「どうやって思いつきましたか？」

**収束** 「共通しているところはありますか？」

**置換** 「～の場合は、どのように言えますか？」

**共通で使える問い返し(例)**

**推測** 「～さんの考えはどうしてうかんだと思いますか？」

**共感** 「～さんの考えの良いところがありますか？」

**補助** 「～さんの考えのヒントが言えますか？」

・ 目標に応じた交流場面を設定し、意図的に交流させます。

ペアやグループ	学級全体
<ul style="list-style-type: none"> <li>説明するに当たり、話し手や聞き手のポイントを明確に示します。</li> <li>時間を決めて、交流させます。</li> <li>交流後、自分の考えを再考したり、改善したりする時間を確保します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒から考えを引き出したつないだりして、板書に位置付けます。</li> <li>考えのよさや事柄の本質を探らせることができるよう、多様な考えを比較・検討させます。</li> <li>全員が自分の考えを広げることができるよう、意図的に指名します。</li> <li>考えを深め、本時の目標を達成することができるよう、問い返しやゆきぶりの発問をします。</li> </ul>



# 「目標の達成度を確認する」を一步先へ！

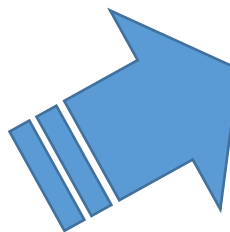
「課題解決の過程を振り返らせる。」ための手立てを協議する。



こんなことはありませんか？

目標の達成度を確認する

- ・ 児童生徒にとって、合格基準がわかりにくい。
- ・ 確認問題の質や量を確保することが難しい。



課題解決の過程を振り返らせる

- ・ 児童生徒自身が確認できるよう、問題や活動に取り組む場を設定する。

自分の 考え	
参考に なる考え	

# 「目標の達成度を確認する」を一步先へ！

## <授業5 ③> 目標の達成度を確認する 課題解決の過程を振り返らせる

p 4

**単元例** 中学校第2学年 数学 一次関数

**○単元の目標**  
具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見出して表現し、考察する能力を養う。

**○単元の計画**  
【一次】作って変わる二つの数量の関係について調べる。  
【二次】一次関数の特徴を表、式、グラフで捉える。  
二元一次方程式を一次関数とみなす。  
【三次】一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察する。(本時)

**【定着に向けた取組】**  
□本時で扱った問題と同質の問題を適用題として取り組ませる。  
□マイナスの数値を扱ったり、 $x$ が連続しない値を示したりする発展的な問題をチャレンジ課題として取り組ませる。一方、定着が難しい生徒には、補充学習を通して基礎・基本の定着を図る。  
□單元末テストを実施し、定着具合を確認する(定期考査でも出題する)。

**授業へ**  
授業と家庭学習をつなぐ視点として、**本時の学習内容の定着と、次時の学習の導入に資する課題を設定することが大切です。**

**③目標の達成度を確認する** 課題解決の過程を振り返らせる ▶▶▶ p 8

**【方法例】**  
・自分と異なる考えを解釈したり、表現したりする場の設定  
・学習の過程を生かす場の設定  
(例) ・条件や数値を変更した問題の提示  
・試技場の設定

**【本時では】**  
数値を変更し、学習過程を生かす場を設けています。考えられる $y$ の値が小数であっても、学習過程を生かしながら最後まで取り組むことができるかどうかを確認します。

**④学習内容をまとめる** 学習内容を整理、確認させる ▶▶▶ p 9

**【方法例】**  
・板書に基づいた問題解決の過程の要約  
・各過程における要点の明確化  
※対話を通じ、児童生徒の言葉を生かしながら、整理、確認します。

**【本時では】**  
問題解決の過程の共通点を見付け、一般化しています。二つの値の場合について、発表させた後、問題解決の過程を一般化し、報告します。

p 8

◎ 児童生徒自身が確認できるよう、問題や活動に取り組む場を設定します。

- ・本時の学習内容と解決の過程が同様で条件を変えた問題や、再度本時の主たる活動を提示し、一人で取り組んだ際の達成度を確認し、必要に応じた指導をします。

**取り組ませ方(例)**

- 学習した問題との共通点や相違点を整理し、学習した考え方を基にして、解いたり表現したりする。
- 自分が思い付かなかった考え方を使い、解いたり表現したりする。
- 新たに獲得した考え方を使い、解いたり表現したりする。
- 集団で練り上げるなどしたよりよい考え方を使い、解いたり表現したりする。
- 既習事項との関連付けを意識しながら、解いたり表現したりする。

※習得した知識及び技能を活用する問題に取り組ませることで、児童生徒の活用する力が高まると同時に、知識及び技能の定着がより確かなものになります。

# 「学習内容をまとめる」を一步先へ！

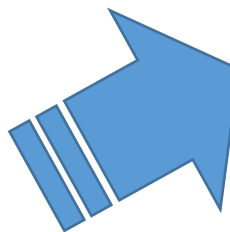
「学習内容を整理、確認させる。」ための手立てを協議する。



**一步先へ!**

学習内容を整理、確認させる

- ・教師が主導し、本時の要点を理解できるように、学級全体で、児童生徒に学習の過程を振り返らせる。



こんなことはありませんか？

学習内容をまとめる

- ・学級全体でまとめが共有されていない

<p>自分の 考え</p>	
<p>参考になる 考え</p>	

# 「学習内容をまとめる」を一步先へ！

## <授業5 ④>学習内容をまとめる 学習内容を整理、確認させる

p 4

**単元例** 中学校第2学年 数学 一次関数

**○単元の目標**  
具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見出して表現し、考察する能力を養う。

**○単元の計画**  
【一次】作って変わる二つの数量の関係について調べる。  
【二次】一次関数の特徴を表、式、グラフで捉える。  
二元一次方程式を一次関数とみなす。  
【三次】一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察する。(本時)

**【定着に向けた取組】**  
□本時で扱った問題と同質の問題を適用題として取り組ませる。  
□マイナスの数値を扱ったり、 $x$ が連続しない値を示したりする発展的な問題をチャレンジ課題として取り組ませる。一方、定着が難しい生徒には、補充学習を通して基礎・基本の定着を図る。  
□単元末テストを実施し、定着具合を確認する(定期考査でも出題する)。

**※先へ!** 授業と家庭学習をつなぐ視点として、**本時の学習内容の定着と、次時の学習の導入に資する課題を設定することが大切である。**

**※先へ!** **③目標の達成度を確認する** 課題解決の過程を振り返らせる >>> p 8

**【方法例】**  
・自分と異なる考えを解釈したり、表現したりする場の設定  
・学習の過程を生かす場の設定  
(例) ・条件や数値を変更した問題の提示  
・誤りの場の設定

**【本時では】**  
数値を変更し、学習過程を生かす場を設けています。考えられる $y$ の値が小数であっても、学習過程を生かしながら最後まで取り組むことができるかどうかを確認します。

**【方法例】**  
振り返りの視点の提示  
師・2種類ある理由を、どのように考えたか  
・表をどのように見て、関数を判断したか  
・説明の記述において、どう表現したか

**【本時では】**  
記述を通して定着具合をメタ認知させます。  
前提となる関数について、表を基にどのように判断したのか相手に明確に説明するために、既習事項を活用してどのように表現したか等を振り返らせることで、定着具合を自己認識させます。

**⑤学習内容を振り返る**  
**学習の成果を自覚させる** >>> p 9

**④学習内容をまとめる** 学習内容を整理、確認させる >>> p 9

**【方法例】**  
・板書に基づいた問題解決の過程の要約  
・各過程における要点の明確化  
※対話を通じて、児童生徒の言葉を生かしながら、整理、確認します。

**【本時では】**  
問題解決の過程の共通点を見付け、一般化しています。  
2つの値の場合について、発表させた後、問題解決の過程を一般化し、板書します。

p 9

◎ 教員が主導し、本時の要点を理解できるよう、学級全体で、児童生徒に学習の過程を振り返らせませす。  
・板書に基づき、主たる学習活動やそこでの学びについて、児童生徒の意見や考えを取り上げながら整理、確認します。

**まとめる流れ**

- ① 導入場面のダイジェスト
- ② 展開場面のダイジェスト
- ③ 終末場面のダイジェスト
- ④ 振り返り

**教員の工夫や配慮事項**

「めあて」を再確認し、「めあて」に対する自分の達成度を考えるための時間であることを知らせます。

一人一人の当初の考えが、交流によりどのように広がり、深まっていったのかについて確認します。

考えの広がりや深まりの過程を確認したところで、まとめとして書くべきことを問い掛け、児童生徒の発言を生かしながらまとめます。

「まとめ」を書かせたら「振り返り」を行います。

**導入に関すること**

- 問題提示・めあて
- 児童生徒との確認事項

**展開に関すること**

- 児童生徒の学びの過程
- 思考の流れ など

**終末に関すること**

- 適用問題など
- まとめ

1単位時間をダイジェストで振り返るには、  
構造化された板書だと分かりやすいね!

# 「授業の振り返りをする」を一步先へ！

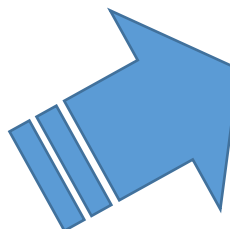
「学習の成果を自覚させる。」ための手立てを協議する。



こんなことはありませんか？

授業の振り返りをする

- ・ 毎時間同じ記述を繰り返す
- ・ 情緒面のみを振り返っている



学習の成果を自覚させる

- ・ 自らの学びと関連付けて充実感、達成感、自己有能感を実感させる

自分の 考え	
参考になる 考え	

# 「授業の振り返りをする」を一步先へ！

## <授業5 ⑤>授業の振り返りをする 学習の成果を自覚させる

p 4

**単元例** 中学校第2学年 数学 一次関数

**○単元目標**  
具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見出して表現し、考察する能力を養う。

**○単元の計画**  
【一次】作って変わる二つの数量の関係について調べる。  
【二次】一次関数の特徴を式、式、グラフで捉える。  
二元一次方程式を一次関数とみなす。  
【三次】一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察する。(本時)

**【定着に向けた取組】**  
□本時で扱った問題と同質の問題を適用問題として取り組ませる。  
□マイナスの数値を扱ったり、 $x$ が連続しない値を示したりする発展的な問題をチャレンジ課題として取り組ませる。一方、定着が難しい生徒には、補充学習を通して基礎・基本の定着を図る。  
□単元末テストを実施し、定着具合を確認する(定期考査でも出題する)。

**→先へ!**  
授業と家庭学習をつなぐ視点として、**本時の学習内容の定着と、次時の学習の導入に資する課題を設定することが大切です。**

**→先へ!** ③目標の達成度を確認する 課題解決の過程を振り返らせる >>> p 8

**【方法例】**  
・自分と異なる考えを解釈したり、表現したりする場の設定  
・学習の過程を生かす場の設定  
(例) ・条件や数値を変更した問題の提示  
・誤技の設定

**【本時では】**  
数値を変更し、学習過程を生かす場を設けています。考えられる $y$ の値が小数であっても、学習過程を生かしながら最後まで取り組むことができるかどうかを確認します。

**【方法例】**  
・振り返りの視点の提示  
師・2種類ある理由を、どのように考えたか  
・表をどのように見て、関数を判断したか  
・説明の記述したか、どう表現したか

**【本時では】**  
記述を通して定着具合をメタ認知させます。前視となる関数について、表を基にどのように判断したのか相手に明確に説明するために、既習事項を活用してどのように表現したか等を振り返らせることで、定着具合を自己認識させます。

**⑤学習内容を振り返る**  
**学習の成果を自覚させる**  
>>> p 9

**④学習内容をまとめる** 学習内容を整理、確認させる >>> p 9

**【方法例】**  
・板書に基づいた問題解決の過程の要約  
・各過程における要点の明確化  
※対話を通じ、児童生徒の言葉を生かしながら、整理、確認します。

**【本時では】**  
問題解決の過程の共通点を見付け、一般化しています。  
2つの値の場合について、発表させた後、問題解決の過程を一般化し、報告します。

p 9

◎ 自らの学びと関連付けて充実感、達成感、自己有能感を実感させます。  
・感想のみにしないためには、学習内容と関連付けることが大切です。

**視点1 具体的に身に付けた学習内容**  
「○○を用いると、△△は□□のように解けることが分かった。」

**視点2 既習事項との関連付けや一般化**  
【関連付け】「以前学習した暖かい土地では、気候を生かした産業を発達させていたが、今日学習した寒い土地でも、同様に気候を生かした産業を発達させていた。」  
【一般化】「地域によって、気候や地形は異なるが、それらを生かしながらくらしを営んだり、産業を発達させていることは共通していた。」

**視点3 自己変容の自覚**  
「授業の前は○○について、△△だと考えていたが、学習した結果、□□だと分かった。」

**視点4 他者との交流による自覚**  
「全体交流をしたことで、○○だけでなく、△△や□□とも考えられることが分かった。」

# 進 行

---

研修の  
ねらい

蓄積した  
実践の  
活用

協議

まとめ

# まとめ

実践について多面的に評価し、授業の質の向上を図る。

児童生徒が  
主役となる  
授業づくり

授業の質の  
向上

全体を見通した  
単元計画

- ①学習問題を自分事として捉えさせる
- ②考えを広げ、深めさせる
- ③課題解決の過程を振り返らせる
- ④学習内容を整理、確認させる
- ⑤学習の成果を自覚させる

- ・ 自己評価
- ・ 指導層が評価
- ・ 児童生徒が授業評価

- ①定着を図る学習内容を確認する
- ②児童生徒の実態を把握する
- ③評価規準を設定する
- ④単元における主たる学習課題を設定する
- ⑤各次における学習活動と達成すべき学習内容を設定し、定着状況を確認するための宿題を課す



# まとめ

授業改善に生かす。

質の高い授業の実現のために、

- 1 『学習指導S【増補版】授業改善、「一歩先へ!」』(以下、「一歩先へ」とする。)に基づき協議することで、**児童生徒が主役となる授業づくりについて理解を深める**
- 2 各自の実践の好事例を共有することで、学校全体や各自の**授業改善に生かす**ことをねらいとする。

# 子供たちの笑顔のために

---

